

専攻科研究補助金の増額および利用用途の拡大を求める嘆願書

米子高専 専攻科 生産システム工学専攻 1年

若林 遥大

Email: 24715@yonago-k.ac.jp

趣旨

近年の物価上昇や交通費の増加により、専攻科学生に付与していただいている研究補助金（年間2万円）では、研究活動に必要な経費を賄うことが困難な状況が続いております。特に、東京都など遠方で開催される全国規模の学会への参加費用においては、交通費だけで補助金の上限を超えるケースが一般的です。このため、学会参加を見送らざるを得ない学生も少なくなく、結果として研究成果を対外的に発表する機会が失われる事態が生じています。

実際にアンケート調査および署名活動により、在学生の9割以上が補助金の増額および使用用途の拡大を求めていることが判明しており、改善の必要性が極めて高いことが明らかです。この現状を打破し、学生が研究活動に専念できる環境を整えるため、補助金の増額および利用用途の拡大を強く要望いたします。

要望事項

1. 補助金額の見直し

現行の年間2万円から4～5万円程度への増額を要望します。年に1回は、規模の大きな学会へ参加することを想定しています。金額の積算根拠は、関東圏での学会参加を想定した交通費、宿泊費、登壇料などを合算したものです。アンケート調査からも3万円以上利用する者は多く、不足している者がいることは明白です。

2. 未使用補助金の再分配

アンケート調査によれば、専攻科1年生は研究活動の初期段階にあるため補助金を使い切れない傾向が見られました。この未使用分を、補助金が不足しやすい専攻科2年生や他の必要とする学生に再分配する仕組みの構築を提案します。この仕組みにより、限られた予算をより効果的に活用することが可能となります。

3. 補助金利用用途の拡大

以下の用途を補助金の対象に含め、研究成果の公表および向上を促進します。

- 学術雑誌への論文投稿費用
- 実験データ収集やフィールドワークに伴う交通費

4. 公平性と実効性を確保するための同時実施

上記1～3の項目を併せて実施することで、学生の経済的負担を軽減し、研究環境の改善を図ります。

提案の意義と必要性

本科では既に交通費等の補助金増額が行われており、専攻科にも同様の対応が求められています。本提案は、専攻科在学生の9割以上の賛同を得ており、緊急性の高い課題です。この嘆願書に記載された必要経費は、実際の積算結果に基づいており、妥当性にも十分配慮しています。

現状の補助金は主に学会参加に使用されており、その予算執行には教員の確認が必要なため、増額による不適切な利用等の発生はできないものと考えます。また、利用用途の拡大についても、規則を新規に作成する必要は認識しているものの、支給方法を大きく変更することはないと考えております。十分な研究成果を得たうえで、その成果を対外的に発表することは、高等教育機関としての重要な使命であり、それを実現するためには補助金の増額が必要不可欠です。

財源の問題やそのほかへの予算配分など課題が多く発生することは重々承知しておりますが、専攻科学生に与える予算をぜひ増やしていただきたいと考えております。必要に応じて総会等に出席し、直接提案内容を説明する準備もごさいます。学生たちの研究活動をより良い環境で支えるために、本嘆願書の趣旨をご理解いただき、さらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

添付資料

● 嘆願署名一覧

在学生の9割以上が本提案に賛同しており、その賛同者一覧を示します。

● アンケート結果

補助金の不足およびその影響を示す具体的なデータを添付しております。

● 想定する補助金利用の積算方法について

本文中に掲載した、金額等の積算根拠と本科生との比較データを掲載しております。